

「安全・交流・楽しさ」大切に 20企業・大学・団体が参加し、企業交流運動会を開催

第2回企業交流運動会
in KOBE実行委員会
幹事長 狩野 和也 氏
委員 中村 優里 氏



「第2回企業交流運動会 in KOBE」が1月12日、神戸市を中心とした20企業・大学・団体189人が参加し、流通科学大学で行われた。実行委員会の幹事長を務めた(株)アシックス秘書室長の狩野和也氏、委員の秘書室渉外チームの中村優里氏に、運動会を開催するまでの取り組みやその中で大切にしたこと、今後の展望について聞いた。

—そもそも企業交流運動会を開催するきっかけは

狩野 神戸商工会議所が創立140周年記念事業として開催した第1回大会（2018年）の参加者から、2回目も開催してほしいとの声が多く寄せられました。健康経営への関心が高まっている背景もあり、有志企業が集まり第2回の開催に向けて動き始めたのがきっかけです。2回目以降も継続開催できる運営のあり方やプログラムを考えるべく、(株)JTB神戸支店、(株)フェリシモ、(株)ロック・フィールド、(株)アシックス、神戸商工会議所、流通科学大学による実行委員会を組織、ミーティングを重ねて手づくりで中身を詰めていきました。流通科学大学からはスポーツ分野専門の山口泰雄特任教授、山口志郎准教授にアドバイザーとして参画いただ

き、「産・学・官」がフラットな立場で作り上げることができました。

—どのようなことが課題になりましたか

中村 資金面では、協賛企業から支援をいただく方法もあるのですが、やはり継続開催のためには自走できる方が良さだろうと考え、各企業から1チーム（5～7人）7万円の参加費をいただきました。第1回の課題として、参加企業同士が交流できる要素を強めてほしいとの意見が多かったことから、各種目にその要素を取り入れ、競技終了後には懇親会を設けました。

議論する上で大切にしたのは「安全、交流、楽しさ」の3つです。第1回大会の会場は芝生だったのですが、今回は体育館の硬い床だったためケガが心配でした。そのため、「リレー」を「ぞうきんがけリレー」に変えるなど、運動強度のレベルを調整し、安全に十分配慮しつつも盛り上がる工夫を加えました。

—実際の様子は

狩野 1月の3連休の中日で集客の心配はありましたが、企業内

で参加者を募る呼びかけをした際には、関心が高く反応も良かったと聞いています。最終的には20企業・大学・団体28チーム



189人の参加がありました。

大縄跳び、綱引きなど一体感を感じられる競技のほか、交流を目的に「名刺交換バトル」も取り入れました。最後の懇親会も含め、皆さん非常に盛り上がっていました。

—企業交流運動会の成果は

中村 流通科学大学の学生が参加者にアンケート調査を実施してくれたのですが、参加動機は「楽しみ・気晴らし」が最も多く、「社内外の交流」が2番目でした。運動会で体を動かすことで心も楽になるのだと気づいていただけたようで、普段から体を動かすきっかけになればと期待しています。同じ会社内でも知り合いが増え共通の話題ができたほか、企業同士の交流も深まりました。

—今後の継続開催に向けて

狩野 スポーツをする仲間づくりを増やしていくためにも、参加企業数をさらに増やしていきたいですし、神戸で開催される他のイベントとも連携してスポーツの機運を盛り上げていけたらいいですね。家族でも気軽に参加できる工夫も取り入れていきたいです。

このような「産・官・学」が連携した運動会はあまり聞かないので、継続することで神戸らしいイベントとして定着させ、企業で働く方々の健康マインドを高めていければと考えています。

第3回大会の開催が決定! 詳細確定次第、ホームページでご案内します。
<https://www.sport-kobe.jp/>



令和元年度「スポーツエールカンパニー」認定企業のご紹介

社内ソフトボール大会やスポーツジム主催セミナーなどで社員のスポーツ実施を促進

株式会社神戸マツダ

神戸マツダは、企業理念「創新」のなかで、実現すべき5つの幸せの一つに「社員とその家族の幸せ」を掲げています。2012年から様々な取り組みを始め、17年から「元気なイキイキ社員を増やす」ことを目的に、本格的に健康経営に取り組んでいます。

中でも、社員のスポーツ実施を積極的に推進しており、部門や店舗ごとに競うソフトボール大会の開催、全社員ゴルフコンペや部活動の支援を行っています。福利厚生面での健康支援とし

てベネフィットステーションのスポーツジム利用補助も促進しており、非常に高い利用率で社員やご家族にも好評です。家族の健康推進の観点から、スポーツイベントには社員の家族の参加も推進しています。また、スポーツジムなどと連携した健康促進セミナーを定期的実施しており、日頃運動の習慣の無い人でも気軽に体を動かせる雰囲気づくりに取り組んでいます。

このような取り組みが評価され、「健康経営優良法人（ホワイト500）」

に2018年、19年、20年と3年連続で認定されたほか、19年には「スポーツエールカンパニー」の認定も受けました。



社員の家族も参加して楽しむソフトボール大会

独自に考案した社内体操などを通じて安全で健康に配慮した職場づくりを推進

株式会社ノーリツ

ノーリツでは、ミッションである「新しい幸せを、わかすこと。」を達成する原動力は、全ての従業員の幸せであり、従業員の心身の健康は働く力の源であると考えています。この考え方のもと、2019年10月に「ノーリツ健康宣言」を行い、従業員一人ひとりが心身ともに元気で、持てる力を最大に発揮できるように取り組んでいます。

毎日始業前には、オリジナルの「ノーリツわくわく体操」を各事業所で実施。当社の業務を確認した理学療法士が、健康に対する意識向上や業務上かかり

やすい疾患の予防を目的に、毎日簡単にできるよう独自に考案したものです。

2019年6月には、労働組合主催の社内運動会「NAMリンピック」を開催し、関西にある拠点の社員らとその家族が集まりました。大人から子どもまで幅広く参加できる競技を選んだことで、運動の機会になったことはもちろん、社員同士や家族のコミュニケーションの時間にもなりました。

これらの積極的な健康促進の働きかけが評価され、「健康経営優良法人2020（大規模法人部門）ホワイト

500」、令和元年度スポーツエールカンパニーに初めて認定されました。



月ごとに動きの一部を変えることで、飽きずに取り組める工夫をする「ノーリツわくわく体操」

年1回の元気度チェックから個人に合わせた指導で心身の健康づくりを積極支援

バンドー化学株式会社

バンドー化学では、健康経営の取り組みを強力に推進するため、2017年9月に「バンドーグループ健康宣言」を制定しました。事業所ごとに『健康いきいき職場づくりチーム』を設置し、運動会などのスポーツ大会や健康セミナーの開催を通じて、従業員の心身の健康増進に取り組んでいます。

当社では、定期健康診断に加え、握力や脳年齢、内臓脂肪面積、筋肉量など自分の身体を知る機会として、全社員対象の「元気度チェック（体力測定会）」を毎年下期に実施しています。結

果をもとにトレーナーや保健師から個別に生活習慣を含めたアドバイスを行い、健康意識を高めて改善に繋げています。

本社事業所では、毎月1回の健康セミナーでヨガやエクササイズなどを提供しています。就業時間中に1日に2回開催することで、時短勤務の社員を含め多くの方が参加しやすいように工夫しています。

毎年恒例の「子ども参観日」では、2019年に初の取り組みとして「親子ヨガ教室」を開催しました。子供と一緒に

に参加することでヨガが楽しく経験でき、普段とは違った親子のコミュニケーションができたことと好評で、継続する予定です。



子ども参観日と同時に開催した親子ヨガ